

立川市自転車施策推進協議会 議事要旨（要点）

会議名称	令和6年度第1回立川市自転車施策推進協議会
開催日時	令和6年7月18日（木）午後3時から午後4時10分まで
開催場所	たましん RISURU ホール 第6会議室
次第	1 立川市第2次自転車活用推進計画骨子案について 2 その他
配付資料	資料1 立川市第2次自転車活用推進計画骨子案 資料2 第1次計画と第2次計画の比較 資料3 国・都・他市比較 資料4 立川市第2次自転車活用推進計画 評価指標（案） 資料5 評価指標比較
出席者	[委員] 岩下光明、中村知宏、大森宣暁、古倉宗治、新井和典、榎原元秋、八木博美（代理）、太田健一、佐藤篤史 [事務局] 交通対策課長（大和田智也）、自転車対策係長（近藤忠良）、自転車対策係（田中仁一郎、前川勝、森谷正昭、森大介、田村信行）
公開・非公開	公開
傍聴者数	1名
議事要旨	(委)：委員 (事)：事務局
1 立川市第2次自転車活用推進計画骨子案について	
(委)自転車の日常使いと余暇使いの比率はわかるか。 →(事)把握できていない。	
(委)離れた駐輪場に止めて歩いて買物に行かなければならない状況だが、店頭での買物時間だけの停車は、店頭のエリアに止めてよいとか、そういったことは考えられないか。	
→(事)定期利用は駅からちょっと離れたところにまとめて止めて、一時利用については、例えば、道路の余剰スペースのようなところに小規模なロットで止める、といったことができるのか、今後検討が必要と思っている。	
(委)商店街の100mくらいの間隔で2・3台の自転車を止めるスポットがあつて、それを商店街の人が管理するとか、そういった連携ができるとよいと思う。	
→(事)今の駐輪場の料金体系は3時間無料としており、これは買い物回りをするときに3時間あればよいという、過去のアンケートに基づいて3時間無料しているが、店前であれば1時間という止め方も考えられると思う。	
(委)観光までつなげていくならば、この会のメンバーに観光コンベンション協会を加えることもよいのではないか。 →(事)個別に意見を聴取するなど調整していきたい。	
(委)評価基準の中にシェアサイクルがあるが、キックボード等の利用率やポート数も加味されるべきではないか。	
→(事)自転車の計画で電動キックボードのことをどこまで書けるか、調整していきたい。	
(委)日常利用と余暇利用の比率については、例えばほかの市では市民アンケートを取り、買物とか目的別に出かける回数を答えてもらい、傾向を捉えているところはある。	
(委)店舗前の駐輪については、全国で以前から課題になっており、自分のところの買物客が店の前に止めるのはよいが、ほかの店の客が自分の店の前に止められると困るということになる。八王子市は、自分の店頭に小さな駐輪装置を置いており、ラックを固定すると占用の問題が出てくるので、簡単なラックで行っている。	
(委)岡山の都市では、商店街の通路幅が広い場合は真ん中に斜めに止めて、その両側を人が通つてもらう例もあった。	
(委)10年以上前の立川市のアンケート調査だったと思うが、自転車で止めたところから目的施設	

まで行くのに何メートルだったら我慢できるかという結果が、駅に行く場合は 180 メートルくらい、買物など駅前施設に行く場合は 100 メートルくらいだった気がする。

(委) 商店街の真ん中にマンションが建つことがあるが、マンションの一部に買い物客も利用できるポートを造ってもらうようなことはできないか。

→(事) シェアサイクルのポートを置いてもらうことは考えられる。

(委) 資料 1 の右下の方向性の③で、自転車の総数は減少しているがとあるが、立川市内の登録されている自転車数などのデータはあるのか。

→(事) 国内の販売台数が減っていることから、そのような解釈をしたが、自転車の保有数とは関連がないので、表現については修正をしたいと思う。

(委) 自転車産業振興協会が自転車保有調査というものを行っており、平成 21 年の調査では、立川市 9 万 1,000 台保有、八王子市は 24 万 9,000 台、三鷹市は 14 万 8,000 台となっている。市の人口に基づいていろんな施策を考えるのと同じで、自転車施策を考えるには市にある自転車総数を知った上で検討する方が、より合理的な施策ができると思う。

(委) 自転車の保有率については、東京都全体で 769 万 2,000 台、1 世帯当たり 1.066、立川市は 1.020 と自転車産業振興協会の調査では書かれている。

(委) 計画の目的のところで、楽しさ、あるいは出かけたくなるという、例えば、車はガソリン代がかかるが、自転車はただで行ける、健康的に移動できるということも楽しさにつながっていると思う。できたら、コラムで楽しさの解説みたいなもの、出かけたくなるというものの説明をすると、計画の目的が市民にとってわかりやすくなると思う。

→(事) 計画の目的の部分の「出かけたくなる」というのは、立川市の 7 年度からの 10 年計画の 5 次長計の中にそういう言葉を入れていこうというところから来ていて、自転車活用推進計画の中では、自転車利用の環境づくりを行い、実際に出かけたくなり、まちの回遊性が向上していくと考えている。

(委) 放置も減ってきたし、駐輪場も余裕が出てきたという中で、駐輪場をどうしていくのかという、駐輪場は単に放置対策ではなくて、インフラとしての基盤であるという位置づけが走行空間と並んで 2 本柱となる。放置対策としての後ろ向きのインフラではなくて、自転車利用を支える前向きのインフラであるという、そういう積極的な位置づけもあってよいのかなと思う。

→(事) 駐輪場の収容台数としては余裕があるが、大型の子乗せ自転車などが増えてきて、使い勝手が悪いとか、空いているけど使えないような状況が一部あると思うので、しっかり考えていきたい。

(委) 電動アシスト自転車について、快適性の向上の項目に入れてもいいのかなと思う。自転車は坂道や向かい風、雨の日も快適性がマイナスになるので、電動アシスト自転車の利用促進も自転車政策では重要な施策として捉えられる。また、免許変返納したときの電動アシスト自転車の補助金を出している自治体もある。

→(事) 子供を乗せている電動アシスト自転車の安全性なども留意しながら、快適性や利便性の向上をどう表現していくか検討していくたい。

(委) 茅ヶ崎市で自転車通勤について企業アンケートをしたところ、自転車は危ないという意識が強く、だから推進したくないと考えている。このことから、メリットの情報発信だけでなく、デメリットのデータを示して、むしろ車の事故率より自転車の事故率が圧倒的に低いことがあり、正確に理解してもらい、企業者なり通勤者に自転車通勤を推進してもらうということも必要と思う。

→(事) 企業と連携して自転車通勤の啓発などを行うことについては、1 次の計画で実際の施策の展開が不十分であったので、充実していければと考えている。

(委) この計画の中では、電動キックボードは対象外で、3 輪自転車など人力の自転車は含むということでおいのか。

→(事) 新たなモビリティが出てきているが、基本的には人力のモビリティを含むでよいと思う。

(委) 電動アシスト自転車については、どのような記載になるのか。

→(事) 補助金を出している自治体もあるようだが、次期計画に補助制度を施策として記載するの

は難しいと考えている。利用のメリット・デメリットとか、快適性、利便性の向上などの情報発信はあると思っている。

(委)電動アシスト自転車は、大体自分の体力で8割ぐらいカバーして、2割は外部のエネルギーを使うという、あくまでアシストで、電動キックボードは100%外部エネルギーとなる。自分の体力を使って動くものは地球環境にも健康増進にもプラスになると考えられている。

(委)電動アシスト自転車と普通自転車の両方使っている人に対してのアンケート調査では、何歳まで車を使うかと聞いたら、平均75歳で、自転車というと80歳まで使えると答えている。このことから、電動アシスト自転車は、高齢者の免許返上後の受皿になりえると思う。

(委)旧多摩川小にサイクルセンターがあるが、あそこの利用はレジャーや観光だと思うので、利用率がどうなっているか把握するとよいと思う。

(委)電動アシストのシェアサイクルも増えてきており、多様な今後新しく出現する可能性のある自転車も含め、記載の仕方が難しい。

→(事)今は骨子の段階で、大きな変更は難しいが、ここから文章化していくので、対象の範囲とか表現については、まだ十分可能と思うので、調整していきたい。

(委)脱炭素や医療費削減、電動アシスト自転車の特徴とかをコラムに、できれば絵入りで、問題意識として持っていることを市としても示した方が、より幅広い計画のスタンスとしてもよいと思う。

→(事)成果指標にはなりにくいが、しっかりと見せたいものは、コラムというようなもので書いていくのかなと考えている。

(委)骨子としてはこの方向性でよく、今日の議論を基にさらに検討を進めていければと思う。

→(事)今後の予定としては、9月議会で骨子を報告して、年度内に素案を取りまとめたい。今年度あと2回ほど協議会を予定している。

2 その他

なし

担当 まちづくり部交通対策課自転車対策係 電話 042-523-2111 (内線 2285)